

I 慰めに満ちた神。「私たちの主イエス・キリストの父である神、あわれみ深い父、あらゆる慰めに満ちた神がほめたたえられますように。神は、どのような苦しみのときにも、私たちに慰めてくださいます」：4。①みことば。「これこそ（みことば）悩みのときの私の慰め。まことに みことばは私を生かします」（詩篇119：50）。②神との祈りの交わり。神は優しく、私達の心に語り掛けられる。③ある人々を通して。「気落ちした者を慰めてくださる神は、テトスが来たことで私たちに慰めてくださいました」（Ⅱコリント7：6）。④肉体と心を休める時を与えられる。「しばらく休みなさい」マルコ6：31 ※証し：人生の苦しみの時の神の慰めの体験。今、私があるのは神の憐み。Ⅰコリント15：10

II 神から受ける慰めにより、苦しみの中にいる人々を慰めることが出来る。「私たちも、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみにある人たちを慰めることができます。私たちにキリストの苦難があふれているように、キリストによって私たちの慰めもあふれているからです」：4, 5。 ※証し：私が苦しみにあう事により、苦しみにあう前よりも、苦しむ人に寄り添う者に主は私を変え続けておられる。苦しみにあう前は、すぐに人に上から目線で、助言を与えようとして失敗した。相手の心を閉ざさせた。助言が生きるのは、気持ちを理解する事が先行する時。助言を求められる時には、祈りつつ助言する。

III 自分の苦しみを兄弟姉妹に知らせ、分かち合い、祈り合い支え合う共同体＝教会の恵み。「兄弟たち。アジアで起こった私たちの苦難について、あなたがたに知らずにいてほしくありません。私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、生きる望みさえ失うほどでした。…あなたがたも祈りによって協力してくれれば、神は私たちを救い出してくださいます。そのようにして、多くの人たちの助けを通して私たちに与えられた恵みについて、多くの人たちが感謝をささげるようになるのです」：8, 11。 ※証し。苦しい時に、教会の方々や、信仰の友に、自分の苦しみ、課題を知らせ、分かち合い、すべてを支配し、すべてを理解しておられる神に、共に祈り合う事が出来た恵み。お互い、すぐに助言する人ではなく、人の気持ちを受け止め寄り添う人になれるように祈りたい。 ※証し。苦しい時に、上から目線ですぐに助言しないで、寄り添ってくれる人を神は備えられて来た恵み。自分も、すぐに助言する者ではなく、まず、聴き、寄り添い祈る者に変えられ続けている。失敗を通して学びつつ。相談された人に私の為にも祈って下さいと頼む心。

IV 苦難は、無駄にならず、私達を、自分自身に頼らず、死者をよみがえらせて下さる神に拠り頼む者に変える。神はすべてを益にされるお方。「実際、私たちは死刑の宣告を受けた思いでした。それは、私たちが自分自身に頼らず、死者をよみがえらせてくださる神に拠り頼む者となるためでした。神は、それほど大きな死の危険から私たちを救い出してくださいます。私たちはこの神に希望を置いています」：9, 10。 ※証し。苦難は、私に、自分の弱さ、無力さを教えた。その分、全能の神に、もっと拠り頼む者に変えられ続けている。神に拠り頼む時、①人の分②自分の分＝賜物、使命、責任、負うべき領域③主にあって互いに助け合う分④神の分を理解する。すべてを神に委ねて、神のみこころを求める。